



聞くこと — 聞法活動のすすめ —

総務 藤山 眞哉

「聞」という文字は、「門」と「耳」から成り立っています。「門」は、左右の「戸」がしまっている様子を形どった文字ですが、音（モン・ブン）を表していて、その意味は、「弁別する、識別する」ということです。それで「聞」とは「耳にはいった声を弁別する、識別する」という意味です。同じような意味を表すことばに、「聴（聴）」という文字があります。意味を表す「耳」と「恵（恵）」（会得するといふ意）、音を表す「壬（壬）」（つまりらかにするといふ意）とから成り立っています。それで「聴」は、「つまりらかに聞いて会得する」という意味で、「聞」よりも一段と精神作用が高度として受けとられています。

御堂の東余間の後方に御簾の下がつた部屋があり、裏側にある入口に「御聴聞所」という札がかかっています。法会の時、お裏方様やゆかりの方々が、聴聞されるところで、この言葉は、格調が高いものです。語源的には、少し意味の深まりの違いはありますが、総じて「聞」も「聴」も「耳にはいった声をよくきき、つまりらかにして会得する」という意味になります。聞いて、聞いて、聞きぬくことにより、だんだんものの本質が見えてくるということです。それが糧となって、宗教的情操心が培われてくるのです。そして、そのことが「聞法」「聴聞すること」の大きな利益であると思います。高田本山教学部では、これまでの活動を見直し、精選し、充実させていくとともに、今後、高田短期大学の仏教文化センターと新しく設立された仏教教育センターと連携して、教育研修活動ならびに

高田本山だより

発行所

真宗高田派宗務院

三重県津市一身田町2819

電話 059-232-4171

FAX 059-232-1414

HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



聞法活動を一層推進していく所存です。

仏教文化センターと本山教学部の共催による開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会としての公開講座がすでに始まっております。

去る七月八日に、第一回として青山俊董さんをお招きして「出会いが人生の宝」と題してお話をいただきました。宗務院第一大会議室は超満席で会場に入れなくなった方には、隣室で聴講していただき、たいへんなご不自由をおかけしました。

第二回目は、九月十六日、奈良国立博物館の廣瀬郁美先生をお招きする予定です。

仏教教育センターとは、僧侶の育成を中心に、大学に講座を設け、組織的、系統的に研修体制を整える計画です。そして、近い将来において講座を増やし、一般の方々にも公開し、地域に開かれたものとしていく構想も持っています。

どうぞ積極的にご参加いただくことをおすすめいたします。

開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会も近づいてまいりました。そのスローガンである「聖人のみもとに帰ろう」は、聞法活動のすすめでもあります。

親鸞聖人四百五十回忌法会と国宝本『西方指南抄』



「西方指南抄」「釋正證」



「釋覚信」

修理中であつた国宝本『西方指南抄』は、八月二十九日に本山に還つてきました。修理中に親鸞聖人の真筆断簡が発見されたニュースは、八月十一日付けの新聞各紙に掲載されました。御承知のかたも多いと思いますが、また、真筆断簡と一緒に修理記録も見つかり、その内容から多くの新知見を得ることができました。この記録については新聞に写真が掲載されませんでしたので、写真と共にその内容をお知らせいたします。

「目録」と冒頭に表題が書かれた修理記録は、縦二六・五cm×横一六・四cmの薄手の楮紙一枚にて、『西方指南抄』第六巻裏表紙の折り返し部分に挟み込まれていました。修理の際、新規に取付けられた表紙の見返し全体には金紙が貼付されたため、単に綴じ糸を外すだけでは表紙内部を見ることは不可能で、こ



修理記録

の金紙を剥がさないと折り返し部分を見ることが出来ません。今回の修理は、虫損部分の修復のほかに、表紙に用いられている金襴の裂(きれ)の修繕も含まれていましたので、金紙を外すことになり、結果、聖人真筆の断簡が発見されたというわけです。

「目録」によると、前回の修理は今から三百年ほど前の宝永五年(一七〇八)に出来上がっています。京寺町二條上ル三丁目下五領前(現、京都市中京区下御霊前町)表具師常照の舁、清兵衛と吉左右衛門が担当し、依頼主の専修寺からは、奉行として「二位」と署名する人物

(おそらく専修寺門前の塔頭寺院の僧侶と思われる)と、坊官(本山事務方)の佐分利玄蕃と倉田勘右衛門が応対したようです。

修理の内容は、正徳元年(一七一)に営まれた親鸞聖人四百五十回忌法会に向けて実施された本格的な修理で、聖人がこの本を書写された当時の料紙(楮紙)のすべてに厚手の裏打ち紙を当て補強し、今回の冊子解体により確認された当初の三孔紙綴り綴じを、五孔糸綴りに改めています。これは三孔の紙綴り綴じが緩みやすく、年月を経て料紙が綴じ目から外れるのを防ぐための改装で、修理後の保存に万全を期しています。

同時に修理された親鸞聖人ゆかりの聖教が、総計七点二十四冊であつたことが判明します。そのいずれもが、聖人八十四歳(一二五六年)から八十五歳(一二五七年)ころの述作であり、そのころ、京都の聖人寓居を訪ねられていた真仏上人(四十九歳)と顕智上人(三十二歳)が下野高田へ持ち還られた聖教や、聖人が高田門徒に認め

られた御手紙です。現在、これらの聖教のうち『三帖和讃』と『西方指南抄』の二本が国宝に指定され、その他の聖教すべて重要文化財となっています。

最初の『御書』十巻は、聖人自筆の『御消息』七巻と古写本『御消息』二巻及び顕智上人筆『親鸞聖人獲得名号自然法爾御書』一巻です。次の『御和讃』

三巻が国宝本『三帖和讃』のこの『西方指南抄』六巻が修理中の国宝本『西方指南抄』です。次の『四十八願』(『四十八誓願』)と『太子奉讃』(『皇太子聖徳奉讃』)は明治時代までは聖人筆とされていましたが、近代の筆跡研究の進展により現今では真仏上人書写本として区別されています。一番最後の『法然上人御消息』(重文)も本文は真仏上人の書写ですが、表紙の外題と袖書きは親鸞聖人の御染筆であることが判明しています。

修理が実施されたころは、藤堂高次の境内地寄進(万治元年、一六五八年)、現在の御影堂建立(寛文六年、一六六六年)と続いて一身田本山の基盤が形成された重要な時期です。これら一連の修理も専修寺第十六世堯円上人の御決断によって開始されました。正徳元年(一七一

一)の聖人四百五十回忌御法会の前後は高田派宗学の勃興期でもあり、宗祖直筆の聖教を公開する機運が高まっていた時代でもあつたのです。

「目録」には修理完了の日付直前に、一人の寄進者名を「川北淨誓」と記しています。この人は当時の安濃津を拠点に木綿問屋を手広く営む豪商として知られた「川北久太夫」で、この「淨誓」のときに姓を「川喜田」と改めています。この十五代目当主が昭和前期に陶芸家として活躍した川喜田久太夫(半泥子)であることは言うまでもありません。

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入(中央局区内)
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

本山諸法会・諸行事

どうぞ、ご参詣下さい。

朝のおつとめ

毎朝、午前七時より。
はじめに如来堂、次に御影堂にて勤行。引き続き、御影堂にてお説教がございします。どうぞご聴聞下さい。

毎月、十六日には御参廟（親鸞聖人のお墓へのお参り）がございします。現在、御廟が工事中ですので、御影堂でのお説教の後、如来堂からの遙拝になります。

九月の行事

◆續佛会

九月二十日～二十六日
秋のお彼岸の法会です。
御影堂にて。

午前十二時三十分より勤行。
勤行に引き続き、お説教がございします。

二十三日には、御親教と復演がございします。

十月の行事

◆資堂講法会

十月一日～三日
本山での永代経です。
午前十二時三十分より勤行。
引き続き、お説教がございします。

◆第五十三回檀信徒研修会

十月五日 九時半御影堂前受付
午前は、「親鸞聖人のご生涯に学ぶ」をテーマに、清水谷正尊先生の法話を聴聞。
午後は、班に別れての分散会を

行います。
申し込みは、本山教学課まで。

◆第十六回教院院研究発表大会

十月三十一日
宗務院二階会議室にて。
午前十時より。
一般聴講歓迎。
聴講無料。

十二月の行事

◆納骨堂法会

十一月三日、四日
親鸞聖人の御廟へのお届け参りをされた方に、真宗のみ教えのご縁をいただく法会です。
午前十時三十分より、納骨堂にて勤行。

午前十二時三十分より、御影堂にて勤行。
引き続き、お説教がございします。

◆秋法会

十一月五日～十日
本山の千部講にご加入された方の法会です。
御影堂にて。
午前十二時三十分より勤行。
引き続き、お説教がございします。

十二月の行事

◆中興上人御正當

十二月八日～十日
高田派中興の祖である第十世、真慧上人を偲ぶ法会です。
御影堂にて。
午前十二時三十分より勤行。
引き続き、お説教がございします。

高田短期大学公開講座

第2回講座

感じて歩こう！仏像の旅
講師 廣瀬 郁実氏
（奈良国立博物館文化大使、仏像ガールの名で活躍中）
日時 平成23年9月16日（金）

第3回講座

心の風景～自然と自然～
講師 金光 寿郎氏
（元NHKチーフディレクター）
日時 平成23年10月7日（金）

第4回講座

ともがらの仏道
講師 阿満利磨氏
（明治学院大学名誉教授）
日時 平成23年11月11日（金）

第5回講座

（未定）
講師 関山 和夫氏
（佛教大学名誉教授 京都西山短期大学学長）
日時 平成23年12月16日（金）

第6回講座

女性の祈りと仏教
講師 西山 厚氏
（奈良国立博物館学芸部長）
日時 平成24年1月27日（金）

全ての講座について

時間 13時30分～15時30分
定員 100名
場所 高田本山宗務院第二会議室
聴講 無料

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念碑
燈籠

高級御影石専門店

御影石材株式会社

（石に御用の方は）
☎0120-142540

本店 津市広明町（影見寺門前）
☎059-224-1700（代）

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

お墓
寺標
墓地移転
霊園開発造成

創業110余年

株式會社 **ISHISEN STONES 石仙**

（旧（有）山本石材店）
四日市市近鉄阿倉川駅前
☎059-331-4114
サイコーヨイシ

ご法事のご会食 ご予約承り中
～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～

お薦め商品（精選+和食ミックス）
本山会席

各種献立よりお選びいただけます。
◇精選料理 1人前 4,000円（税別） ◇本山会席 1人前 3,500円（税別）

お問い合わせご注文は
☎高田青少年会館 TEL.059-232-6079

人気商品 高田本山流 精選料理
※ご自宅までマイクログラスで配達品（5名より14名様まで）

緑と共に75年
三重県知事免許認可
（一級造園技能士）造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77
TEL 232-7453
FAX 232-7453

シンポジスト

龍谷大学教授 長上 深雪 先生

同朋大学大学院教授

田代 俊孝 先生

種智院大学教授 向井 啓二 先生

京都文教短期大学教授

安藤 和彦 先生

高田福祉事業協会常務理事

高林 光暁 先生

司会 高田短期大学

特任教授 金信 昌樹 先生

大谷大学学長 草野 顕之 先生

大谷派萬福寺 住職

佐々木 正 先生

山形大学教授 松尾 剛次 先生

本願寺派西勝寺 住職

山田 雅教 先生

14日(土) 7:00~8:00 晨朝 説教 隆 妙懺 師

9:00~10:00 社会福祉事業協会参詣

10:00~11:00 稚児練り

11:00~12:15 日中 千部法会

〈東本願寺派御焼香〉

説教 藤山 眞哉 師

13:30~14:45 逮夜兼初夜

説教 島 義厚 師

15:00~18:00

シンポジウム 念仏道場

テーマ:「親鸞聖人の御生涯を再考する」

コーディネーター

高田短期大学学長

栗原 廣海 先生

シンポジスト

同朋大学仏教文化研究所顧問

小山 正文 先生

15日(日) 7:00~8:00 晨朝

説教 千草 篤昭 師

9:00~10:00 報徳園参詣

10:00~11:00 稚児練り

11:00~12:15 日中 千部法会

説教 真岡 慶光 師

13:30~14:30 逮夜 説教 戸田 信行 師

15:00~16:00 節談説教 真宗大谷派

満覚寺住職 廣陵 兼純 師

16:30~18:00 初夜

説教 高林 亮英 師

18:00~21:00 献灯会 境内

20:00~21:15 雅楽(愛知県龍鳴会)

21:40~22:40 寺内町通夜

23:00~ 後夜

16日(月) 7:00~8:00 晨朝

説教 長谷部 行雄 師

9:00~10:00 御参廟

11:00~12:15 日中 千部法会

御親教 復演鑑学 松山 智光 師

*内容につきまして急遽変更となる場合がございます。
ご了承下さい。

50年に一度の御遠忌を、4月6日から16日までの11日間にわたり厳修いたします。賑やかにご参詣ください。



帰敬式(おかみそり)は7日から、御日中15日までの逮夜勤行(御親教)後に如来堂にて行います。



稚児練りは14日(土)、15日(日)の2日間両日とも午前10時予定です。受付は10月1日からです。

CBCラジオ (1053kHz)
「高田本山の時間」

平成23年10月8日から来年3月末までの半年間、毎週土曜日朝6時50分から7時までの間オンエアです。御法話、並びに御遠忌の情報を高田本山から発信いたします。ぜひ、お聴き下さい。

開山聖人750回遠忌報恩大法会
高田派所属寺院写真展

現在ご寺院様の写真を募集しています

本山では来年4月に厳修します開山聖人750回遠忌報恩大法会の期間(平成24年4月6日から4月16日まで)、高田派の寺院を広く参詣の方々に知っていただくため高田派所属寺院写真パネル展を開催します。

開山聖人750回遠忌報恩大法会

4月6日(速夜)～16日(お日中)まで

6日(金) 13:30～14:30 速夜
説教 三栗家 篤証 師
15:00～16:00 【特別講演】
高田派 鑑学 小妻 道生 師
16:30～17:30 初夜
説教 大河戸 悟道 師

7日(土) 7:00～8:00 晨朝
説教 松山 智道 師
9:00～9:30 供茶式(宗旦古流)
9:30～10:30 坊守大会
11:00～12:15 日中
十万人講法会(表白、御親教)
復演 鑑学 栗原 廣海 師
13:00～13:30 大講堂説教 小堀 高生 師
13:30～14:45 速夜兼初夜
説教 秦 浄憲 師
15:00～16:30 【特別講演】
龍谷大学教授本願寺派勸学
内藤 知康 先生

8日(日) 7:00～8:00 晨朝
説教 里榮 秀教 師
9:00～9:30 釈迦三尊
9:30～10:30 責任役員参詣
能楽 召見殿
11:00～12:15 日中 十万人講法会
説教 蒲池 龍眼 師
13:00～13:30 大講堂説教 藤澤 真純 師
13:30～14:45 速夜兼初夜
説教 花山 光瑞 師
15:00～16:30 高田派青年会主催
保谷果菓子ひとり舞台
「よきひと、親鸞～恵信尼ものがたり～」(仮題)

9日(月) 7:00～8:00 晨朝
説教 鷺山 了悟 師
9:00～10:00 高田派仏教幼稚園保育園参詣
風船あげ
11:00～12:15 日中 十万人講法会
説教 浦上 勇哲 師
13:00～13:30 大講堂説教 井東 信道 師
13:30～14:45 速夜兼初夜
説教 中村 宜成 師
15:00～16:30 【特別講演】 東京工業大学准教授
上田 紀行 先生

10日(火) 7:00～8:00 晨朝
説教 田中 明誠 師
9:00～11:00 婦人連合大会
11:00～12:15 日中 十万人講法会
御親教 復演 鑑学
小妻 道生 師
13:00～13:30 大講堂説教 林 浄光 師
13:30～14:45 速夜兼初夜
説教 松田 信慶 師
15:00～16:30 【特別講演】
評論家 芹沢 俊介 先生

11日(水) 7:00～8:00 晨朝
説教 藤井 徳雄 師
9:00～10:00 表彰式
11:00～12:15 日中 戦没者法会
〈各派御門主御直香〉
説教 廣田 隆学 師
13:30～14:45 速夜兼初夜
説教 金森 顕宏 師
15:00～18:00 教学院布教大会

12日(木) 7:00～8:00 晨朝 説教 藤田 正知 師
9:00～10:00 高田学苑参詣
11:00～12:15 日中 千部法会
〈各派総長 御焼香〉
説教 伊藤 泰臣 師
13:30～14:45 速夜兼初夜
説教 都築 堯寛 師
15:00～16:30 念仏者の集い
龍谷大学教授 本願寺派勸学
浅田 正博 先生

13日(金) 7:00～8:00 晨朝
説教 芳川 賢史 師
9:00～10:00 高田学苑参詣
11:00～12:15 日中 千部法会
説教 戸田 恵信 師
13:30～14:45 速夜兼初夜
説教 真昌 智海 師
15:00～18:00 仏教福祉シンポジウム 念仏道場
テーマ:「実践を通して仏教福祉
の未来を考える」
コーディネーター
高田短期大学教授 千草 篤磨 先生
基調講演
医事評論家 西来 武治 先生

親鸞聖人のご生涯シリーズ ⑱

慈信房善鸞義絶

京都に帰られてからの親鸞聖人は著述に専念されましたが、八十四歳の時ご生涯で最も心を痛められたであろう事件が起きたのであります。

それは関東でのこと。聖人が滞在されていた際にも念仏の教えを正しく受けとれない者もいたと思われませんが、京都にお帰りになられて以降は、

関東の教団はますます混乱の度を増しておりました。

その様子を門弟から知らされた聖人は、動搖を鎮め指導するため、聖人の名代として子息慈信房善鸞を派遣されました。

しかし様々な信仰と異議が複雑に絡みあつた関東を指導することは、善鸞にとつて容易なことではなかつたと思われまふ。そればかりか聖人の直弟子、高弟たちとも対立する結果となつたのです。

自分は親鸞の息子だから、他の門弟たちに教えなかつたことを、夜中にただ一人で教えてもらったのだとか、また実の母である恵信尼を継母だと言つて、その継母から言い惑わされたとか言いふらし、うそいつわり事を鎌倉幕府の当事者へ告げ口をしました。しかも聖人の信心の中心である阿弥陀如来第十八の本願を、淵んだ花にたとえてそれを捨てさせたなどと言つて、教団を乱し法を誹謗する子息の姿を知り、聖人は涙をふるつて善鸞と親子の縁を切り、門弟にも伝えました。

「コノコトトモツタエキコト、アサマシサ、マウスカキリナケレハ、イマハオヤトイ

ウコトアルヘカラス。コトオモウコトオモイキリタリ。」

（『慈信房善鸞義絶状』）

建長八年（一二五六年）五月二十九日のことでした。

その後も聖人の著述の姿勢は変わりませんでした翌年には「大日本国票散王聖徳太子奉讃」（百十四種）、「皇太子聖徳奉讃」（十一首）を制作され、「世間虚仮、唯仏是真」の聖徳太子のお言葉を深く味われたことでしょう。

（教学院第三部会）

武田龍精編
往生論註出典の研究

論大綱／総説偈文／觀察門／廻向門／解義総説／起觀／生信／觀察体相／淨入／願心／善巧／撰化／離苦提障／順菩提門／名義撰対／願事成就／利行満足／總結釈の論集／参考文献略記一覽外
定価9000円税込

林智康著
親鸞聖人と建学の精神

知恩報徳と常行大悲／前に生れんものは後を導き、後に生れんひとは前を訪へ／世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ外
定価1300円税込

北畠晃融著
仏道を学ぶ

普賢保之著
定価1680円税込

——自己を見つめて——
本當の幸せとは

——自己を見つめて——
定価1000円税込

無名会同人編
仏と人47

定価410円税込

松岡秀隆著
蓮如上人の門弟の人々

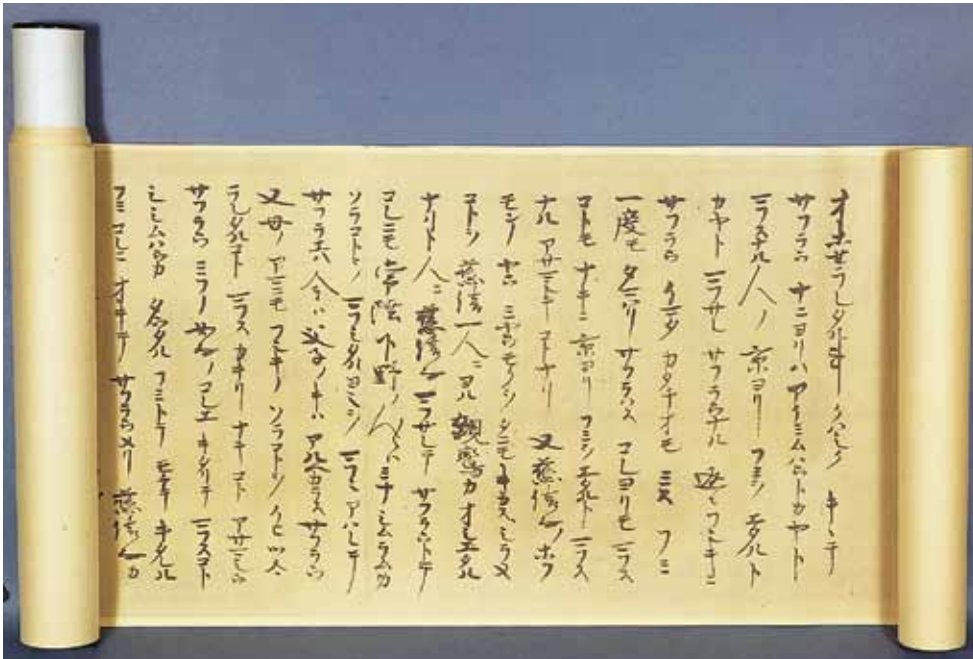
定価2500円税込

山崎龍明著
歎異抄とともに

定価1050円税込

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
電話 0755-33711・66651
FAX 0755-33711・90651
振替 0150-20504・90331

慈信房善鸞義絶状



雅楽ってこんなに身近！

名古屋市長東区 蓮教寺住職 三井 蓮孝

お寺から雅楽の音が聞こえてくると、意外に思われる方が多いようです。そんな不思議そうな顔をした同行さんが住職さんに尋ねています。

「ご院さん、ご院さん」

「はいはい」

「にぎやかな音が聞こえるけれど何かあるのですか？」

「今日はお寺で雅楽を練習する日ですよ」

「雅楽って、神社でよく聞きますよね。どうしてわざわざお寺で練習するのですか？」

「実は、お寺では昔から雅楽があるのです。日本で一番古い法要の記録が奈良の大仏さんの開眼供養ですから、千数百年の歴史があります」

「千年以上も前からですか。それは知りませんでした」

「聖徳太子様も三宝（仏法僧）の供養に雅楽を勧めたと言われています」

「雅楽で、供養ですか？」

「供養は、仏様へ心をこめてお供えをすることです。お香



雅楽の楽器が飾られた欄間

やお花、お灯明とともに雅楽も大切な供養の一つです」

「なるほど、雅楽もお供え、供養なのですね。確かに雅楽の音には独特の雰囲気がありますからびっくりです。しかし、この厳かさは一体何なのでしょうか」

「雅楽がつくるその雰囲気は、極楽浄土でしようね」

「極楽浄土？」

「お浄土では、いつも天から楽が奏でられていて、それは自然に、清らかに響きわたる。これは、お経様やご和讃に書かれてあるのですよ」

「へえ、お経さんにも雅楽のことがねえ」

「お経様だけではありません。お寺の欄間を見て下さい」

「あつ、雲の中に楽器が！」

「そうです。お浄土を表した本堂に雅楽の楽器がよく飾られています。ひよつとしたら、ご自宅のご仏壇さんにあるかもしれませんね」

「いやあ、お寺さんと雅楽がこんなに深い関係にあったとは知りませんでした。」

ねえねえ、ご院さん。その雅楽ってやつは、やっぱり難しいのでしょうか。」

「大丈夫ですよ。稽古をすれば誰でも吹けます。みんなと合奏するのも楽しいです」

「ただ楽器もありませんし、できるかどうか不安なので、ちょっと様子を見てみたいのですが」

「ちょうど今、名古屋別院で雅楽の体験会が始まったところですよ。お同行さんもたくさん来ていますから、どうぞ中へお入りください」

別院の体験会では、笙や笛などの楽器を揃えています。ぜひ手にとって、実際に体験をしてみてください。ご参加をこころよりお待ち申し上げます。

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田 潤

京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

参加者 大募集

はじめこの！ 雅楽体験



日時：10月30日（日）午後7時～8時

場所：高田 名古屋別院（御本坊）

名古屋市中区西区郡古野1-20-5 ☎ 052-551-2976

ご質問やお申し込みは

体験事務局 ☎ 052-701-0058 www.nyumekai.org



ホーオーが目印！

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇

高田本山御用達

京仏具

小堀

本店／京都市下京区烏丸通正面上 ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

